

| 会 議 録 | | |
|--------------|---|-------------------------------|
| 会議名 | 令和7年度 山陽小野田市男女共同参画審議会（第1回） | |
| 開催日時 | 令和7年10月8日（水）13：30～15：30 | |
| 開催場所 | 市民館 団体会議室 | |
| 出席者 | 末永 育恵、池田 直美、大本 章男、 岡部 つや子、吉岡 忠司、大木 雅子 藤永 美枝子、 堤 千佳子、 縄田 一三、 山本 俊則、 | 委員数 15名 出席者数 10名 委任状 3名 |
| 欠席者 | 仲田 和美、大塚 悠平、松村 孝子、吉田 章人、磯谷 美津子 | |
| 事務局等 | 協創部長 篠原 正裕、 協創部次長 河上 雄治、 市民活動推進課 主幹 安藤 知恵、 市民活動推進課 主任 田邊 碧 | |
| 会議次第 | 1 開 会 2 辞令交付 3 部長あいさつ 4 自己紹介 5 議 題 （1）さんようおのだ男女共同参画プラン令和6年度実績報告について ・ 令和6年度実績報告及び令和7年度実施計画（資料1） ・ 令和6年度指標による進捗状況（資料2） （2）さんようおのだ男女共同参画プラン令和7年度実施計画について ・ 令和6年度実績報告及び令和7年度実施計画（資料1） （3）第5次さんようおのだ男女共同参画プラン策定に係る市民及び事業所アンケートの実施について ・ 第5次男女共同参画プラン策定に係るアンケート実施要領（案）（資料3） ・ 市民アンケート案（資料4） ・ 事業所アンケート案（資料5） 6 閉 会 | |
| 会議内容 （要旨） | 議題（1）さんようおのだ男女共同参画プラン令和6年度実績報告について 【事務局より、令和6年度実績報告（資料1）について説明】 （委 員）困難な女性からの相談は誰が受けているのか。 （事務局）専門的な研修を受けた市職員を女性支援相談員として1名配置している。相談は、女性支援相談員と市民活動推進課職員の2名体制で受ける。 （委 員）相談はどこにしたらよいのかわかりにくい、男女共同参画情報誌スマイルは相談先が掲載されていてわかりやすい。 （委 員）日頃からの人付き合いも大切だと思う。人と話をする中で相談したりされたりすることは地域コミュニティにおいて欠かせないものではな | |

いか。

【事務局より、令和6年度指標による進捗状況（資料2）について説明】

（委員）「スマイルキッズの利用者数」は令和6年度は1万人を超えているが、令和8年度は8000人が目標になっているが、これは子どもの数が少なくなると見込んでいるからか。

（事務局）令和8年度目標値は、令和3年度現状値を元に第4次プラン策定時に設定している。令和6年度現状値は1万人を超えているので、それも鑑みて次期プランにおいては担当課である子育て支援課が目標値を設定してくると思う。

（委員）「市の男性職員の育児休業取得率」も同様か。

（事務局）委員のお見込みのとおりである。

（委員）「係長級以上の役職者に占める女性職員の割合」は、令和6年度は令和3年度を下回っていることについてはどうか。

（事務局）役職への登用は年齢や実績等を鑑み決定するので、そこに性別が影響しているとは考えていない。

（委員）昔、会社で人事の担当をしていた。女性社員に昇進の打診をすると家庭を理由に固辞される人も少なくなかった。今も社会の中でそういう風潮が少なからずあるのかと思う。

（委員）近年はワークライフバランスを重要視する人も多く、性別にかかわらず、役職につきたくないという人はいる。また、管理職を引き受けてもらうには給料面はもちろんのこと、労働環境の整備は企業側の取組として欠かせないことである。

（委員）私と同じ40代の周囲から聞かれるのは、この年代はまだまだ子育て世代で家庭を優先せざるを得ないということである。先ほどの意見のとおり、企業に配慮や理解がないと管理職につくのはなかなか難しい。男女平等というが、家庭において女性が担う部分は多い。また、女性は妊娠・出産でキャリアが中断されるということもある。それらを総合的にカバーされ、誰もが働きやすいシステムがあればと思う。

議題（2）さんようおのだ男女共同参画プラン令和7年度実施計画について

【事務局より、令和7年度実施計画（資料1）について説明】

特に意見なし

議題（3）第5次さんようおのだ男女共同参画プラン策定に係る市民及び事業所アンケートの実施について

【事務局より、第5次男女共同参画プラン策定に係るアンケート実施要領（資料3）について説明】

特に意見なし

【事務局より、市民アンケート案（資料４）について説明】

（委員）８ページの回答者のことを尋ねる質問で性別を聞いているが、男性と女性しか選択肢がないのはなぜか。

（事務局）前回の市民アンケートには「その他」を入れ、全部で３つの選択肢としていたが、今回は令和４年に内閣府が行った「男女共同参画に関する世論調査」を参考に選択肢を設定した。

（委員）先日国勢調査の調査員をしたが、質問によっては「答えたくない」という声も聞かれた。その時は「回答は義務付けられているのでお願いします」と伝えたが、このアンケートは柔軟な選択肢があってもいいのではないか。

（委員）設問が「戸籍上の」となっているので、選択肢が男性と女性になるが、戸籍上の性別と自分が思っている性別で悩んでいる人もいるわけで、「その他」があっても良い。多様性の観点から個人情報に関する質問は「その他」を選択肢として入れるべきである。

（委員）「戸籍上」という部分を削除し、回答者自身が思っている性を尋ねるだけで良いのでは。

（事務局）アンケートの分析のために性別を尋ねる設問は必要だと考えるが、「戸籍上」とある部分は削除し、選択肢に「その他」を加える。個人情報を探ねる設問については同様とする。

【事務局より、事業所アンケート案（資料５）について説明】

（委員）まだまだ企業の中で賃金など男女の格差があると思うが、そういったことはどの設問に当てはまるか。

（事務局）近いものとしては、Ｆ５の「女性管理職(課長級以上)への登用状況」から読み取ることができると考えている。

以上